

Mycobacterium abscessus complex の亜種同定および薬剤感受性の検討

◎鈴木 眞¹⁾、宮部 安規子¹⁾、斉藤 知子¹⁾、瀬川 俊介¹⁾、山下 晃司¹⁾、菅谷 陸¹⁾、川崎 健治¹⁾、松下 一之¹⁾
千葉大学医学部附属病院 検査部¹⁾

【目的】*Mycobacterium abscessus* complex (MABC)には *M. abscessus* subsp. *abscessus*、*M. massiliense*、*M. bolletii* の3亜種が含まれ、非結核性抗酸菌(NTM)症のキードラッグであるマクロライド系抗菌薬の薬剤感受性が異なる。治療方針を決定するためにも亜種同定は重要であるが、質量分析による鑑別は困難であり遺伝子解析を実施できる施設も限られるため、現在までの報告は少ない。今回、当院で分離されたMABCの亜種同定および薬剤感受性検査を実施したので報告する。

【対象と方法】2021年1月～2023年10月に当院でNTMが分離され、質量分析(MALDI Biotyper)によりMABCと同定された15株(喀痰11株、皮膚軟部組織2株、器具洗浄液1株、血液1株)を対象とした。亜種同定はシカジーニアスDNA抽出試薬(関東化学)によりDNAを抽出後、Multiplex PCRにより実施した。薬剤感受性検査はプロスミックRGM(極東製薬)を用いて、添付文書に従い培養3-5日目に中間判定、14日目に最終判定を行った。

【結果】亜種の内訳は、*M. abscessus* 6株、*M. massiliense* 9株、*M. bolletii* 0株であった。マクロライド系抗菌薬であるClarithromycinの最終判定値・耐性率は、*M. abscessus* が0.5->64 µg/mL・50% (3/6株)であり、3株は最終判定時に0.5 µg/mLで感性を示しマクロライド誘導耐性を認めなかった。*M. massiliense* のClarithromycin最終判定値・耐性率は0.25->64 µg/mL・11% (1/9株)であり、耐性を示した1株は中間判定時には>64 µg/mLであった。

【考察】一般的に*M. abscessus* および*M. bolletii* は*erm*(41)の全長保持によりマクロライド耐性を示し、*M. massiliense* は*erm*(41)の欠失により感性を示すことが報告されている。しかし、本検討株は数株で予想された薬剤感受性とは異なる結果を示した。特に*M. massiliense* では培養3日目に高度耐性を示す株の存在が明らかとなり、*rrl*変異による耐性の可能性が考えられた。MABCを分離した際は亜種同定だけでなく、同時に薬剤感受性検査を実施することが必要である。

連絡先 043-222-7171 (内線 6211)